令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出　■10月2日(木)提出　■3月13日(金)提出

学校番号	36	四万十　高等学校	課程	全

高知県の教育の基本理念	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 （3）多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 四万十川を学びのフィールドとした自然環境教育や、持続可能な地域づくりのための地域連携活動により、主体性や社会性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する。

スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】（入学者受け入れ方針） 〇中山間地域の少人数の学校で、自身の可能性を伸ばそうとする生徒を求めています。 〇地域や自然の大切さを理解し、地域や自然とかかわる活動に意欲的に取り組む生徒を求めています。 〇自然環境コースには、自然環境や農林業に興味を持ち、自然観察や野外活動に積極的に取り組む生徒を求めています。 【グラデュエーション・ポリシー】（育成を目指す生徒の資質・能力） 〇行動や生き方を自己決定し、実現に向けて粘り強く努力する生徒を育てます。 〇他者の立場に立ちながら自分の思いや考えを伝えられる生徒を育てます。 〇論理的、科学的手法で物事を探究しようとする意欲ある生徒を育てます。	【カリキュラム・ポリシー】（教育課程の編成・実施方針） 〇各教科および課外活動において、地域や自然の中で課題を発見し、解決する力を養うよう計画していきます。 〇習熟度別授業や遠隔授業等を取り入れ、少人数講座のメリットを生かした講座編成を行います。 〇普通科の2年次からは、個々の進路希望に応じた2つのコースに分かれ、幅広い講座設定で学力向上・資格取得に対応します。 〇自然環境コースでは、自然環境や農林業のフィールドワークや実習で、「人と自然の共生」を学び、3年次からの研究活動に取り組みます。

学校関係者評価

【学力の向上】　評価　【 B 】

学力を身につけさせたいと取り組む先生方と生徒が目標に向かって学習に取り組む姿は素晴らしい。
学力がつかないと学校生活やその後にも影響があるので頑張ってほしい。
目標がC層以上でよいのかが気になる。

【社会性の育成】　評価　【 B 】

地域と関わりがあり良いと思う。これからも四万十町・大正地域を盛り上げてもらいたい。
地元出身の生徒も町外県外出身の生徒もよく挨拶をしてくれる。地域行事へもよく参加している様子がうかがえる。ただ、特定の生徒に限られていることは残念。
自分のやりたいことが明確で努力されていると思う。在学中に一人ひとりのやりたいことが見つかり積極性が培われと更に素晴らしいと思う。
消極的な生徒も少人数だからこそ一人ひとりが主人公だと思えるような取り組みや先生の関わりを期待します。

【チーム学校】　評価　【 B 】

学校評価アンケート（教職員）の結果で「地域や保護者などの学校を取り巻く外部の存在を意識しているか」というアンケートでAが0%という結果が残念（Bは70%）。小さな地域の中で、協力したいと思っている住民は少なくはない。是非、地域のことをもっと知ろうとする姿勢を期待。先生方の業務が多岐に渡り骨を折られていることと思う。特に部活動顧問になると尚更。一般企業では働き方改革はできても学校となると難しい問題だと思う。

（評価）A：目標を十分に達成　B：目標をほぼ達成　C：やや不十分　D：不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】		見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 〇基礎となる知識・技能 〇思考力、判断力、表現力 〇生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び 〇社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 〇キャリアデザイン力（やりぬく力）	〇C層以上の生徒の増加 ・1年：R7.4（73）%→R7.11（75）% ・2年：R6.4（58）%→R7.11（75）% 〇授業外学習時間（1時間以上）の増加 ・1年：R6(25)%→R7.11（50）% ・2年：R6(50)%→R7.11（60）% 〇将来のための勉強をしている生徒の増加 R6全学年平均（86.0）%→R7全学年平均（85）%	〇Edtech教材（Google Workspace等）の効果的活用による学習管理や学力の定着。クラスルーム等の活用により効果的な授業実践を行う。 〇授業と授業外を結ぶ学習サイクルの定着として、生徒が主体的に取り組める内容に努める。ICTの活用（タッチペンの導入など）とともにPDCAによる効果的な授業展開ができるよう計画と実践を行う。 〇進路目標決定に向けた個別支援（進路検討会の効果的実施等）インターンシップ・進学対策補習や模試・検定の計画・実施。	B	〇C層以上の生徒の増加 ・1年：（73）%　・2年：（67）% 〇授業外学習時間（1時間以上）の増加 ・1年：(60)%　・2年：(17)% 〇将来のための勉強をしている生徒増加 R7全学年平均（84）%	・これまで同様に個別最適な指導を引き続き継続 ・授業外学習習慣の定着に向け、ICTの活用を含め、各教科の特徴を生かした方法により、探究活動など行いシームレス化を意識し生徒の自主性を伸ばす。 ・町営塾「じゆうく。」との情報共有によって、効果的な進路指導につなげる。	B	〇C層以上の生徒 ・1年：（73）%→（80）% ・2年：（58）%→（82）% 〇授業外学習時間（1時間以上） ・1年：(25)%→（30）% ・2年：(50)%→（25）% 〇将来のための勉強をしている生徒 R7全学年平均（83）%→（85.1）%	授業外学習時間について、生徒の実態を再度確認を行う。特に2年生の数値を意識的にあげる必要がある。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 〇豊かな人間性・道徳性・社会性 〇他者への思いやり（地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む）	〇学校生活が充実している生徒数90%以上維持 ・1年：R6（92）%→（90）% ・2年：R6（92）%→（90）% 〇自分のことを大切だと思える生徒の増加 ・1年：R6（67）%→（75）% ・2年：R6（75）%→（75）% 〇将来の夢や目標をもっている生徒の増加 ・1年：R6（50）%→（70）% ・2年：R6（83）%→（80）%	〇授業を通して地域社会等の経験を重ねる。 プラスチック容器や小箱などの廃材を集めることで地元の保育園児との連携した活動で工作などの材料とする。また、田野々小学校と連携し、小学生が農業体験を高校生とともに行うことで小学生と高校生ともに社会性の育成に繋げる。 〇総合的な探究の時間を通じて地域との協働学習の機会を設定、「ふるさと納税」をテーマに地元の特産品を高校生が発案する活動を通りて地域に貢献する。	B	・各教科で保育園や小学校と連携した授業を行うことができ、地域協働の活動が実践できている。 〇学校生活が充実している生徒数90%以上維持 ・1年：(80)%・2年：(92)% 〇自分のことを大切だと思える生徒の増加 ・1年：(70)%・2年：(58)% 〇将来の夢や目標をもっている生徒の増加 ・1年：(60)%・2年：(50)%	・これまで同様に個別最適な指導を引き続き継続。 ・ボランティア活動などを通しさらに地域と連携。 ・生徒会活動等で挨拶運動など基本的な活動を大切に取組たい。 ・探究の時間は次年度に向け予算確保のための「GCF」を学ぶ。	B	〇学校生活が充実している生徒数 ・1年：（92）%→（90）% ・2年：（92）%→（82）% 〇自分のことを大切だと思える生徒 ・1年：（67）%→（50）% ・2年：（75）%→（75）% 〇将来の夢や目標をもっている生徒 ・1年：（50）%→（70）% ・2年：（83）%→（58）%	生徒が地域や自分のためになる活動としてどのようなことがあるか把握できるようにする。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 〇生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 〇地域・関係機関との連携	〇地域や社会について考えている生徒の増加 ・1年：R6（42）%→（70）% ・2年：R6（71）%→（75）% 〇地域や社会のために行動している生徒の増加 ・1年：R6（30）%→（60）% ・2年：R6（50）%→（80）% 〇地域連携活動への参加生徒数　のべ（50）名	音楽部の中高連携とともに地域イベントへの参加により地域活性化に繋げる。 企業・大学などの参加する第3回学×地フェスタへ参加し四万十の魅力のPRなどに繋げる。 田野々小学校の放課後学習として読書や九九のサポートで高校生の希望者を募り小学生の対応を行う。	B	〇地域や社会について考えている生徒の増加 ・1年：(70)%・2年：(42)% 〇地域や社会のために行動している生徒の増加 ・1年：(30)%・2年：(67)% 〇地域連携活動への参加生徒数　のべ（90）名 ・第3回学×地フェスタへ参加し企業や大学、他校と交流ができ本校の魅力発信もできた。	・11月に「石積み甲子園」の大会に初参加。地域や関係機関と連携し練習を重ねる。 ・保育園や小学校と連携を継続。 ・地元中学校へ高校生が学校説明に訪問し生徒募集を行う。	B	〇地域や社会について考えている ・1年：（42）%→（60）% ・2年：（71）%→（25）% 〇地域や社会のために行動している ・1年：（30）%→（60）% ・2年：（50）%→（67）% 〇地域連携活動への参加生徒数 のべ（100）名	ホームや学年により考え方や捉え方に差があるため、実際の活動を振り返りながら、地域等と連携をより深める。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 〇学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 〇各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	〇授業における思考・まとめ・発表機会の設定 ・1年：R6（83）%→（90）% ・2年：R6（92）%→（90）% 〇授業内でタブレットをほぼ毎日活用している生徒の割合 R6全学年平均（95.8）% → R7全学年平均（80）% 〇教科間連携授業の実施回数　（5）回	〇授業における成果発表の機会の設定 中高一貫活動のふるさと学習発表会や各教科での調べ学習や探究的な学習をとおして生徒の発表機会を設定する。また、防災サミットへの参加を通して学習内容を共有する。 〇他教科と連携した授業の実施（公開授業期間等の活用） 教科間の横断的な視点を持って学校全体でも生徒が関心を持てる内容を検討する。	B	〇授業における思考・まとめ・発表機会設定 ・1年：(90)%・2年：(83)% 〇授業内でタブレットをほぼ毎日活用している生徒の割合 全学年平均（79.4）% 〇教科間連携授業の実施回数　(2/5)回 ・授業デザインプロジェクトチームを中心に各教科で生徒が主体的に取り組めるテーマを設定し活動を始めている。	・12月のふるさと学習発表会や1月の環境学習発表会のほか、防災実践校（令和8年度発表）として取り組みを実施する。 ・ニホンミツバチに関する活動準備として、2年2H（自然環境コース）から実践予定。	A	〇授業における思考・まとめ・発表機会 ・1年：(83)% →（90）% ・2年：(92)%→（92）% 〇授業内でタブレットをほぼ毎日活用している 全学年平均（95.8）%→（86.9）% 〇教科間連携授業の実施回数　5回	授業デザインプロジェクトによる「ニホンミツバチ」をポイントとして、生徒一人一人が教科横断的な視点を含め自主的・主体的な学習活動を目指す。ICTの活用にもより意識を持って取り組む。

		取組のねらい【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】		見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 〇学校の魅力の再確認とともに学校情報の効果的な発信 〇地域連携活動の推進による本校の存在感の向上	〇魅力化・特色化の具体的目標（指標） ・連携中学校（大正・十和）からの志願率 R6（37）%→（50）% ・県内外からの施設見学者数 R6（20）名→（30）名 ・連携中学校以外の志願者数 R6（4）名→（8）名	〇連携中学校との生徒間交流の機会の増加【中学校PTA総会等での学校紹介、中高交流マッチ（体育行事）の開催、海学習の合同活動を見据えた中高連携の拡充】 〇既存の寮以外の住まいの確保 〇学校の情報発信を円滑に行える仕組みの整備：公式インスタグラムを2日に1回の更新※長期休業除く 〇地域コンソーシアムによる生徒数確保	B	・中高の生徒交流を高校生が企画して中高交流マッチを実施できた。 ・中高連携活動について新たな組織体制を検討している。 ・自然環境コースの取組で中高連携を深める準備ができている。 ・活動の情報発信に課題がある。 ・県内外からの施設見学者数（50）名	・地元中学校へ高校生が訪問し学校紹介を実施。 ・寮以外の受け入れを町と相談する。 ・中高連携活動の充実を図る。組織体制の見直しなど。 ・SNS等による情報発信の増。	A	〇魅力化・特色化の具体的目標（指標） ・連携中学校（大正・十和）志願率 R6（37）%→R7（25）% ・県内外からの施設見学者数 R6（20）名→R7（50）名 ・連携中学校以外の志願者数 R6（4）名→R7（17）名	中高連携の関係中学校を中心に高校生による学校説明を積極的に実施する。また、県内外への中学校等への説明も現役高校生や卒業生が参加できるようにする。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 〇不祥事防止対策の徹底 〇よりよい職場風土づくり 〇教職員のメンタルヘルス 〇不祥事発生時の適切な対応	〇倫理観堅持のための具体的目標（指標） ・不注意事案発生件数　（0）件 〇不祥事防止校内研修の実施回数年（4）回 〇不祥事防止委員会の実施回数年（4）回	〇個人情報を取り扱う際の事務処理体制（ダブルチェック）の徹底 〇既存の会議等での日常的な啓発 〇定期的な面談等、相談しやすい環境づくり	A	〇倫理観堅持のための具体的目標（指標） ・不注意事案発生件数　（0）件 〇不祥事防止校内研修の実施回数年（3/4）回 〇不祥事防止委員会の実施回数年（3/4）回	・今までの取組の継続 ・2学期以降も継続的な不祥事防止に向けた取組を検討し、実践していく。	B	〇不注意事案発生件数 （0）件→（0）件 〇不祥事防止校内研修の実施回数 （4）回/年→（4）回/年 〇不祥事防止委員会の実施回数 （4）回/年→（4）回/年	日頃の注意喚起の継続と校内研修の内容をさらに充実させる。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 〇学校行事等の運営の見直し 〇各分掌間の業務の平準化 〇夏期休暇等の確実な取得 〇定時退校日の設定の奨励	〇月45時間超の時間外勤務の延べ人数 ・（33）名→（20）名以下 〇学校評価アンケートにおける否定的評価 ・「業務の平準化」（33）%→（10）%以下 ・「勤務時間管理」（20）%→（10）%以下 〇夏期休暇の取得率（100）%	〇学校行事の実施時期・内容の見直し 〇既存の会議の見直し（回数・内容） 〇ICT機器を活用した教材の共有、アンケートの実施・集計	C	・産業医面談2名あり ・主に部活動指導、分掌業務によって、月45時間超の教員が毎月複数名出ている状態である。解消は難しい面もあるが、メリハリの効いた勤務になるよう声がけの徹底。 〇夏期休暇の**5日間**取得率（75）%	・今までの取組の継続 ・学校行事や様々な業務に関して、内容の見直しや来年度に向けた検討もしていく。 ・退勤時間の厳守を呼びかけ続ける。	C	〇月45時間超の時間外勤務の延べ人数 ・（33）名→（47）名 〇学校評価アンケートにおける否定的評価 ・「業務の平準化」 （33）%→（30）% ・「勤務時間管理」 （20）%下→（45）% 〇夏期休暇**5日取得率**（100）%→（75）%	学校行事の精選および内容の整理。 各分掌の業務分担や担当者別の内容について見直しとともに改善を継続する。